

日本センチミア

先端銅合金箔の20段圧延機開発

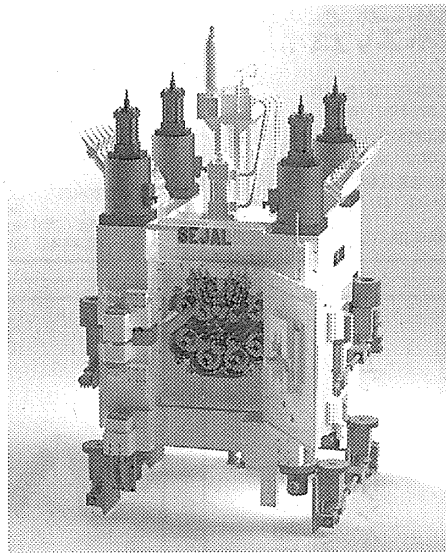
AIデータセンター・電子材料向けに最適化

最小30ミクまで圧延可能

センチミア圧延機専業メーカーの日本センチミア（本社・東京都中央区、社長・鈴木秀洋氏）は23日、コルソン銅やチタン銅などハイエンド銅合金の極薄・箔材の圧延に適した新型20段圧延機Ⅱ写真

を開発したと発表した。AIデータセンター・電子材料向けに最適化し、最小板厚30ミクまで圧延可能。ワークロール径を小径から大径まで無段階で使用できるといった特長がある。すでに中国の圧延メーカーに納入し、稼働が始まっている。今回開発したのは、プリストレス分割ハウジング式ワークロールワイドレンジ型の20段圧延機。プリストレスにより高いミル剛性を保持し、分割ハウジン

グによるハウジングのオープン量の増大で通板・ロール組み替えが容易となっている。さらに上下ハウジングの高さ調整機能を装備することで、ワークロール径を小径から大径まで無段階で使用可能とし、パスラインも一定とした特許取得の構造が特長だ。従来機ではワークロール径の変更時に第1・2中間口の径の制約があったが、新型機では中間



ロール径の制約がほぼなく、必要に応じてワークロール径を変更し操業でき、幅広い条件で安定した圧延が可能となっている。

近年、AIサーバーや電子機器の高性能化に伴い超高強度と高電導性を兼ね備えた高機能銅合金材料の需要が拡大していることから、市場ニーズに対応し新型圧延機を開発した。同社では、今後も高機能材料市場を中心に事業展開を強化する方針としている。